

## 介護職員初任者研修カリキュラム

(合計 130 時間)

### 1 職務の理解 (6 時間)

講習目標			
研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的にイメージをもって実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。			
項目名	通学 時間数	通信 時間数	内容
①多様なサービスの理解	3	0	・介護保険サービス（居宅、施設） ・介護保険外サービス
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	0	・居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ・居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ ・ケアプランの位置づけに始まるサービス提供に至るまでの流れ ・地域の社会資源との連携

### 2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9 時間)

講習目標			
介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。			
項目名	通学 時間数	通信 時間数	内容
①人権と尊厳を支える介護	1	5	・人権と尊厳の保持 ・ I C F (国際生活機能分類) ・ Q O L (生活の質) ・ ノーマライゼーション ・虐待防止、身体拘束禁止 ・ 個人の権利を守る制度の概要
②自立に向けた介護	0.5	2.5	・自立支援 ・ 介護予防

### 3 介護の基本 (6 時間)

講習目標			
介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。			
項目名	通学 時間数	通信 時間数	内容
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	1	1	・介護保険サービス（居宅、施設） ・介護保険外サービス
②介護職の職業倫理	0.5	0.5	・居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ・居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ ・ケアプランの位置づけに始まるサービス提供に至るまでの流れ ・地域の社会資源との連携
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	1	1	・居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ・居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ ・ケアプランの位置づけに始まるサービス提供に至るまでの流れ ・チームアプローチ、地域の社会資源との連携
④介護職の安全	0.5	0.5	・介護職の心身の健康管理

#### 4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9時間)

講習目標			
介護保険制度や障がい者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。			
項目名	通学 時間数	通信 時間数	内容
①介護保険制度	0.5	2.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度創設の背景及び目的、動向</li> <li>・仕組みの基礎的理解</li> <li>・制度を支える財源、組織・団体の機能と役割</li> </ul>
②医療との連携とリハビリテーション	0.5	2.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医行為と介護 ・訪問介護</li> <li>・施設における看護と介護の役割・連携</li> </ul>
③障がい者自立支援制度およびその他制度	0.5	2.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者福祉制度の理念</li> <li>・障がい者自立支援制度の仕組みの基礎的理解</li> <li>・個人の権利を守る制度の概要</li> </ul>

#### 5 介護におけるコミュニケーション技術 (6時間)

講習目標			
高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職にもとめられていることを認識し、初任者として最低限の摂るべき（取るべきでない）行動例を理解している。			
項目名	通学 時間数	通信 時間数	内容
①介護におけるコミュニケーション	1.5	1.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割</li> <li>・コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション</li> <li>・利用者・家族とのコミュニケーション技術の実際</li> </ul>
②介護におけるチームのコミュニケーション	1.5	1.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記録における情報の共有化 ・報告の作成</li> <li>・コミュニケーションを促す環境</li> </ul>

#### 6 老化の理解 (6時間)

講習目標			
加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。			
項目名	通学 時間数	通信 時間数	内容
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	1.5	1.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴</li> <li>・老化に伴う心身の機能の変化と日常への影響</li> </ul>
②高齢者と健康	1.5	1.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の疾病と生活上の留意点</li> <li>・高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点</li> </ul>

## 7 認知症の理解 (6 時間)

講習目標			
介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。			
項目名	通学 時間数	通信 時間数	内容
①認知症を取り巻く状況	1	1	・ 認知症ケアの理念
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	0.5	0.5	・ 認知症の概念 ・ 認知症の原因疾患とその病態 ・ 原因疾患別ケアのポイント ・ 健康管理
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1	1	・ 認知症の人の障害、心理・行動の特徴 ・ 認知症の利用者への対応
④家族への支援	0.5	0.5	・ 認知症の受容過程での援助 ・ 介護負担の軽減 (レスパイトケア)

## 8 障がいの理解 (3 時間)

講習目標			
障がいの概念と I C F (国際機能生活分類)、障がい者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考えかたについて理解している。			
項目名	通学 時間数	通信 時間数	内容
①障がいの基礎的理解	1	0	・ 障がいの概念と I C F ・ 障がい者福祉の基本理念
②障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	0.5	0.5	・ 身体障がい ・ 知的障がい ・ 精神障がい
③家族の心理、かかわり支援の理解	0.5	0.5	・ 家族への支援

## 9 こころとからだのしくみと生活支援技術（75 時間）

講習目標				
<p>介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。</p> <p>尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。</p>				
項目名	通学 時間数	通信 時間数	内容	
基礎知識の学習	①介護の基本的な考え方	1	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理に基づく介護（ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除）</li> <li>・法的根拠に基づく介護</li> </ul>
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	1	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習と記憶の基礎知識</li> <li>・感情と意欲の基礎知識</li> <li>・自己概念と生きがい</li> <li>・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因</li> <li>・こころの持ち方が行動に与える影響</li> <li>・からだの状態がこころに与える影響</li> </ul>
	③介護に関するこころのしくみの基礎的理解	2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人体の各部の名称と働きに関する基礎知識</li> <li>・骨、関節、筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用</li> <li>・中枢神経系と体性神経に関する基礎知識</li> <li>・自律神経と内部器官に関する基礎知識</li> <li>・こころとからだを一体的に捉える</li> <li>・利用者の様子の普段との違いに気づく視点</li> </ul>
生活支援技術の講義・演習	④生活と家事	2	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家事と生活の理解</li> <li>・家事援助に関する基礎知識と生活支援</li> </ul>
	⑤快適な居住環境整備と介護	7	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・快適な居住環境設備に関する基礎知識</li> <li>・高齢者・障がい者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法</li> </ul>
	⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整容に関する基礎知識</li> <li>・整容の支援技術</li> </ul>
	⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動・移乗に関する基礎知識</li> <li>・さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法</li> <li>・利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するこころとからの要因の理解と支援方法</li> <li>・移動と社会参加の留意点と支援</li> </ul>
	⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事に関する基礎知識</li> <li>・食事環境の整備</li> <li>・食事に関連した用具、食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ</li> <li>・楽しい食事を阻害するこころとからの要因の理解と支援方法</li> <li>・食事と社会参加の留意点と支援</li> </ul>

	⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>入浴、清潔保持に関連した基礎知識</li> <li>さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法</li> <li>楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</li> </ul>
	⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>排泄に関する基礎知識</li> <li>さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法</li> <li>爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</li> </ul>
	⑪睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護	1	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>睡眠に関する基礎知識</li> <li>さまざまな睡眠環境と用具の活用方法</li> <li>快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</li> </ul>
	⑫死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ</li> <li>生から死への課程</li> <li>死に向き合うところの理解</li> <li>苦痛の少ない死への支援</li> </ul>
生活支援技術演習	⑬介護課程の基礎的理解	6	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護過程の目的、意義、展開</li> <li>介護過程のチームアプローチ</li> </ul>
	⑭総合生活支援技術演習	6	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例による展開</li> </ul>

## 10 振り返り（4時間）

講習目標			
研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。			
項目名	通学 時間数	通信 時間数	内容
①振り返り	2	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修を通して学んだこと</li> <li>今後継続して学ぶべきこと</li> <li>根拠に基づく介護についての要点（利用者の状態像に応じた介護と介護課程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等）</li> </ul>
②就業への備えと研修終了後における継続的な研修	2	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続的に学ぶべきこと</li> <li>研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例（Off-JT、OJT）を紹介</li> </ul>